

透析患者のTAVI実施施設へ

低侵襲治療の選択拡充

西区の札幌孝仁会記念病院（齋藤孝次理事長、入江伸介院長・276床）は、透析患者に対する

経カテーテルの大動脈弁留置術（TAVI）の施設基準を2023年12月にクリアし、治療実施

に認定された。透析患者はさまざまに合併症を抱えていること

もあり、全身状態を考慮した適切な治療の提供を行っていききたい考えだ。

一般的にTAVIの場合、毎年1万件以上が国内

で実施され、死亡率は全体の1%程といわれる。近年、開胸手術に比べて同等の安全が徐々に認められ、低リスク患者や比較的若年の患者にもTAVIが実施されるようになってきている。こうした流れを受けてエビデンスが蓄積してきたことから、21年に慢性透析患者を対象としたTAVIの適用が拡大。脳梗塞などの合併症や血管石灰化になりやすい重症の大動脈弁狭窄症を患う透析患者へ実施されるようになった。

THT（経カテーテル的心臓弁治療関連学会）協議会が定める施設基準には▼TAVR（開胸手術）指導施設、またはTAVR専門施設▼TAM（TAVI）もしくはTAVI専用施設の手技独立▼エドワーズライフサイエンス社またメドトロニック社の透析適応拡大トレーニングの受講▼施設のTAVR症例のレジストリーデータ登録を100%実施など厳しい条件が設けられている。

「TAVR指導医の岩切直樹循環器内科主任医長は、「基準の中には、侵襲性の高い条件もある。当病院は受け入れ体制は整っていたものの、ハートチームと協議し、透析TAVIの実施施設認定を目指すより、目の前にいる患者を第一に考えて対応した結果、昨秋に施設条件のクリアに至った」と話す。

同病院では16年3月のTAVI開始以来、約400症例の実績を持つている。透析患者へのTAVIは、非透析患者より合併症リスクが3〜5倍もアップするため、希望者すべてが受けられるわけではなく、現時点では重症の大動脈狭窄症の透析患者が少ない理由から、透析TAVIは実施していないという。

「複数ある問題を開胸手術で同時に解決した方がいい場合もあるため、透析TAVIの実施はケースバイケース。それでも透析患者にとって、TAVIの選択肢が増えたことは大きい。道東方面は力を込める。」



16年3月からTAVI手術を実施

2024年(令和6年)5月6日(月)

北海道医療新聞 2面